

北般若だより

2026 年（令和 8 年）2 月 1 日
第 347 号
北般若自治振興会
北般若公民館

令和8年度戸出地区二十歳の集い

令和8年1月11日10時30分より戸出コミュニティセンターにて、『戸出地区二十歳の集い』が挙行された。同地区の対象者は112名、其の内87名が出席した。

式典は、高岡市長の式辞が代読、祝辞を戸出地区自治会連絡協議会副会長が述べ



祝電が披露された後、『二十歳の決意表明』と『交通安全宣言』が行われ式典を終了。その後、恩師の先生に花束贈呈・写真撮影と盛り上がった。

出席者の平成17年生まれの増田紗英(大清水)さんは、「成人式に参加して、これまで育ててくれた家族や仲良くしてくれた友人への感謝の気持ちを改めて実感しました。晴れ着に身を包んで、久しぶりに同級生と再会できたことも心に残っています。今後は一人の大人として、自分の行動や選択に責任を持ち、前向きに社会と向き合っていきたい」と思いを新たにしていました。

乞うご期待!! 地域バス

本事業は戸出地区自治会連絡協議会で決議し、北般若地区を代表として本格運行を目指して実証運行を開始した。1月末で39日間の実証運行を終え、北と南ルート合せて上り 1 便と下り2便の3便で計117便運行し、延べ約150人に利用頂き多くのご意見を頂戴した。

全集落で乗降があり、上りの市街地への行先はショッピング街が約8割、病院が2割であった。運行後半には戸出市街地の方も地域バスの情報を知り戸出駅から乗車してショッピング街に向かう方も多数いらした。本実証運行から利用者の実態はもとより、運行経費などが明らかとなった。これに今年の国や県及び市の補助金の動向も見据えて、醍醐・是戸・戸出地区も含めた協議会全体で、早期に戸出全体のご高齢の交通弱者を優先して本格運行を目指します。 地域バス推進リーダー

新徳市自治会長

このたび、徳市自治会長を務めさせていただく事になりました山田徹です。私は、この徳市の地で生まれ育ち67年となります。地域の方々から、多くを学び共助してまいりました。これからも、私は少しでも皆様方のお役に立てるように頑張っていこうと決意致しました。『困った時はお互い様』と言えるような風通しの良い地域作りを目指したいと思います。至らぬ点もあると思いますが自治会会員各位、北般若自治振興会のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いします。



自治会活動は趣味のゴルフに例えれば、グリーンも、ピンフラグも見えない遠〜いロングホールをクラブを選びながら前進あるのみと思います。窮地にたった時は、メンバーの知恵を借り、次の世代にはフェアウェーの真ん中からタスキを繋ぎたいと思う処です。 山田 徹

時代を終える

今年の冬、JA高岡北般若地内の大豆集荷加工施設から湯気(蒸気)が上がっていない。本来ならこの時期、味噌づくりは最盛期を迎えているはず。しかし昨年(7年度)で作業員の方の高齢化のため終了したという。

昭和54年からこの施設で味噌づくりが始まった。味噌は、高度成長期以前は自宅で作る“手前味噌”が主流。各家々は味噌小屋で貯蔵していた。その後、核家族化が進み次第に店頭で買うようになっていった。この味噌は、「美味しい」と人気で県外からもふるさとの味を求め注文があったという。寒のこの時期、雑菌の繁殖を防ぎ、仕込んだ味噌は美味しく仕上がる。水は冷たく澄み、大豆も麹も冷めやすく、味噌の仕込みに適している。加工施設での味噌づくりは終わったが、日本の発酵パワーの栄養豊富な発酵食品の味噌は、今日も“みそ汁飲みの医者いらず”で美味しく健康で過ごしたいものです。 青島幸子

石代左義長の時代背景と現在

毎年小正月(1月15日頃)に執り行われる「左義長」は、平安時代に行われていた「三毬杖(さぎちょう)」と呼ばれる習わしを起源とし、正月遊びで使った「毬杖(ぎっちょう)」という杖を3本立て、正月飾りやお札等と一緒に燃やしていたのが、後に「左義長」として広まったとされている。元々は子どものための行事とされていた。

石代の左義長は筆者が小学生の頃(昭和40年代前半)には、高校生・中学生・小学生が準備・製作をして、1月14日夜に火を入れていた。最近では、児童数が激減し継続が困難となったため、自治会の行事として「成人の日」前後の休日に、自治会役員・班長・有志にて製作している。更に、土地改良が進みコンクリートの河川・用排水になったことで「萱」が少なくなり、庄川河川敷に群生する「萱」を求め、「地方整備局富山河川国道事務所」に許可申請し、毎年12月中旬に自治会役員で刈取・保管(約20束)することになっている。



今年も1月11日、総勢8名にて暴風雪の中、約4mの竹竿3本を支柱として立ち上げ、その中に、稲藁・豆ガラ・枯れ枝等を配置、外から保管してあった20束の「萱」を立て掛け、3方から藁縄で胴締めする。その後、石代の神社の古い注連縄を吊り、各自持ち寄った古い「お札、お守り、正月飾り」の中に入れ完成。途中、消防署から「荒天候(暴風)」につき、点火は延期するよう」に指導が有ったため、左義長本体にブルーシートを張って作業終了となった。翌日、曇天微風状態で15時に左義長に火が入れられ、ドーン、バーンと竹の弾く音の中、大きな火柱が上がり、出席者(男女計17名)から大きな歓声が上がった。途中、自治会からお神酒、温かい飲み物、更に出席者が持参したアルミ箔に包まれたお餅・サツマイモが焼かれ、一年の無病息災を願い出席者に振舞われた。

会員各位が一年間無病息災や家内安全を祈った。

自治会副会長 井林秀文

北般若地区等の動き

2/19 なのはな元気教室

2/22 北般若公民館 文化講演会



“笑う門には福来る”

令和7年12月27日(日)、北般若公民館ホールにて



「門松づくり講座」を今回はじめて開催しました。定員20名の募集は大変好評で、あっという間に定員に達しました。当日は、寒い雪模様でしたが、参加者は早くから集合し、門松づくりにとりかかりました。ミニ門松は、台座の竹(直径約15cm)の中に3本の竹を立て、松やナンテン、ゆずり葉を思い思いに楽しんで彩り、各自オリジナルの門松を完成させました。

大型門松も5柱も作成し、竹の斜め切りの笑い顔に、こもと縄を巻き、飾りつけを行い完成させました。飾り付けの縁起物の材料は、提供頂いたものを使用しました。

門松は年神さまが家へ降臨されるときを目印となる神の依り代です。

非常に楽しかったという言葉を頂き正月の風物詩が一つ増えた楽しい年末の一日でした。

公民館スタッフ



『小泉八雲・怪談の紙芝居』

日時 2月22日(日曜日) pm2:00～

会場 北般若公民館

講師 富山八雲会

演題 『小泉八雲と怪談の紙芝居』

NHK連続テレビ小説「ばけばけ」で注目が集まる小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)。八雲の研究を行う富山八雲会が紙芝居や朗読などを披露し、著作や功績を伝えます。

紙芝居では、英語と日本語で八雲の作品「怪談」から「ムジナ」・「若返りの泉」を上演。スクリーンに絵を映し出し、感情豊かな語りで来場者を楽しませます。紙芝居、子供たちも見に来てくださいね。